（1）　昭和二十四年八月二十五日（半月刊）　立教大學新聞　（一部五円）　第61號

立教大學新聞

発行所
豊島区池袋三丁目
立教大學新聞學會
振替口座東京七〇八五二
編集兼印刷発行人　齋藤敏夫

カメラと小型シネ
ケンコー製品　発賣元
レフボックス
三脚
35カメラ
フィルター
東京・新橋交叉点
村上商会本店
電(57)5050・5095

私立學校法等上程か

臨時國會早くも十月中旬

新学制最後の総仕上げともいうべき大学の行政、組織、財政、設置に関する法律は第五國会にも提出されなかつたが、今度の臨時國会には私立学校法、学校財政法、学校法人法、学校設置規準法の上程が豫定されているなお懸案の大学行政法については、さきの文部省原案（大学法試案要綱）が各方面の反対を受け、その後審議したがまとまらず、この程大学行政法審議会を構成、ここで法案を作成するはずであるが、目下審議会準備会の委員を人選中であるこれに関し文部省大学学術局内藤庶務課長は「目下、大学行政法審議会準備委員を人選中で、それから審議会をつくつて法案を錬りなおすので今度の臨時國会には間に合はないと思う、無理して出せないこともないが、そうすれば試案要綱の線でゆくより仕方がないと思う」と語つた

しかし臨時國会が九月中旬の豫定であつたところ補正豫算の問題で早くとも十月中旬、實際には十月末になる模様で、そうなれば上程の可能性も大となるわけである

触媒研究所活動不能

文教豫算の大削減はあらゆる教育研究機関を不能に追込んでいるが北海道触媒研究所は事實上機能が全く停止し東京工大へ移轉が決定された（運盟）

學生放送文化研究會發足

NHK〝学生の時間〟の企画、編集に際してさきに学生の件による学生放送文化研究会が生れ多大の成果をあげて來たが、さる七月二十三日の理事会で常に不偏不党の公器である「放送」の性格を恩い、公平冷靜な立場において「放送文化」に関する研究調査を行なうと共に「放送」その先驅的活動を行なうことを決議、新しい意氣込みで新発足することとなつた、なおこの際学放文研では「放送」を学生ならびに青年層に直結させるため学生の時間の批判、意見、希望はもとより、NHKに対する批判をも千代田区幸町日本放送協会内学生放送文化研究会あてどしどし送られるよう希望している（運盟）

管教授出發

既報の管文学部長は去る八月十二日午後八時佐々木総長外数名の教授に送られて、プレヅデント・ゴルドン号に乗船、米國に向け横浜港を出発した

なお立教女学院の教職員及び生徒が多数見送に來ていた

堅穴式住居跡發見

學界の注目あびる史研

本学史学研究会では、宮本教授指導の下に櫻井君以下四十名七月二日から千葉縣市川の堀之内に新種の土器発掘を行つたが、丘陵のふもと八カ所を発掘した所縄文式時代の住居跡の床の一部を発見、同所を重点的に調査発掘の結果、炉を中心とする楕円形の堅穴住居跡を発見するに至つた

この住居跡は、炉を中心に楕円形状で南に延び南面の壁から炉の中心までは二九五糎あり、壁は北東には見られない、壁の周囲に三カ所柱材らしいものが見られたが、柱穴は床が所々掘りかえされているので未だ発見されていない

同所は大正十三年、山内清氏が発掘を行い、これにたいして堀之内なる名称が與えられ、縄文式文化時代の遺跡地として有名であつたが、未だその住居跡床が発見されず学界の注目の的となつていた、この発見によつて原始時代の住民がこの丘陵上に定住していたことが證明された

この堅穴住居跡については引続き調査中であるが詳細にわたつては、近日中学会に発表される、この学術的研究に学校当局として資金面での協力が望まれている（写眞は発掘にあたる研究会々員）

教育宣言を否定

高瀬文相　あれは新聞の誤報

日本経営学会に出席のため去る七月三日小樽に來た高瀬文相は小樽商大で記者団と会見、その一問一答で次のような発言を行つた

問　教育宣言が出るというが

答　教育宣言は出ない、あれは新聞の誤報だ、もつとも文教審議会で道義を確立するため首相も出席して種々協議をしているが教育宣言とは無関係だ

とのべ教育宣言は出さないことを明確にした（運盟）

久保田教授死去さる

本学英文科教授、久保田正次氏は昨年來病氣加療中であつたが七月廿六日午後七時五分自宅で死去、享年六十九歳

同教授は大正六年來の野球部長で、本学の元老であり学院の特異な存在として著作生活を續けられ、昨年五月胃病に脳いつ血を併発、老齢のため各方面からその健康を氣ずかわれていたが本年六月脳いつ血を再発、なおも試験期には教壇に立たれた程であつたが七月委縮腎のため遂に死去された、その死は学生始め各方面からいたく惜しまれており、遺族には夫人始め一男三女がある

OB 現役　追悼試合擧行

久保田野球部長追悼、現役OB対抗試合は大学葬終了後、午後五時から故人ゆかりの地、東長崎グランドに開催、折りから開幕中の都市対抗野球に参加の先輩多数が参集、田辺元経済学部長の始球式に試合は開始された

この日砂じんものすごく熱戦となつたが、OB軍は投手十七人をマウンドに送る盛況ぶり結局一五対一〇で現役軍にガイ歌があがつた、なお出場した選手は現役軍はレギユラーメンバー全員でOB軍のメンバーは辻、門協より藤本にいたる名投手が、又各ポジシヨンも新旧と交互に夫々出場し久保田部長をしのぶにふさわしい追悼試合を行ないその幕をとぢた

功績を讃え大學葬

故久保田教授の大学葬は佐々木総長、葬儀委員長となり八月十一日午後二時から本学チヤペルにおいて挙行、遺族始め教職員同窓生、野球部関係者、英米文学会等、各界名士多数出席、亡き同教授の学院、野球部に残された功績をたゝえて、靜かにその祈りは續けられた

學問に熱心だつた父

久保田重子

父の死は餘りにも安らかでした。未だにステッキをついて通る老人を見掛けると思わずはつとしてしまい、私は父の永眠が何か信じきれない様なせきばくにとらわれるのです。本当に、父は氣弱な位思いやりが深かつたのです。平生子供達のすることにはほとんど口出しせず無関心な位でしたが、学問のことになると熱心で、細かい心遣いをしてくれました。一生懸命自分の本だなから本を選んでくれ、時には途中で疲れてすわりこんでしまうこともありました「勉強は若い中に、そして途中で止めてしまつてはいけない」といつていたものです。若い人達の中に居るのが好きで学校に行くのが楽しみの様でしたし訪問客もひきとめては、話をするのがうれしそうでした。氣は若くても體のすい弱は免れず、野球部長としても若かつた昔と違つて思う様につくせないのを残念がつていました。雑誌社から頼まれた原稿、中断してしまつたのが餘程氣になつていたと見え意識が不明りようになつてからも「赤インクと青インクを持つてきて」「Aと書いて」等私に代筆させていたところを夢みているらしく、それきりで寝入つてしまうのでした藤の花が最近季節外れに僅か開きました。それを見ていると、父が机に向うと窓越しに丁度目の前に藤色の花が見えるのだよ、と喜んでいた事、そしてそれをだれかが何時の間にかもぎ取つてしまつたのをとても口惜しがつていた事など思い出します。何一つ遺言めいた事を言わず、母の手を握つて安らかに目を閉じた父でした。（久保田教授二女、本学英文科在学）

ヒューマニテイックな先生

川崎浅吉

久保田先生、この言葉は私に何か言い知れぬ微笑を強いる。それは人間的なユーモアと頼もしさに滿ちた先生えの思慕の微笑であろう。私達は豫科一、三年英語の教授を受けた。教室えの興味もなさそうな顔をして入つて來られ授業が終ると何の興味もなさそうな顔をして出て行かれる先生の飄々たる態度―しかし講義そのものは非常に味のある事は何時も感服していた

その久保田先生が今正に一大飛躍せんとする立教に、また英語界にいく多の輝かしい業績を残されて昇天された事は一まつの寂しさを感ずるのである。大学葬における先生のクローズアップされたお写眞のクシヤクシヤな顔を見るとき「君達はジヤガイモとして入学したんだ。学校の芝生の上でゴロゴロしておれば卒業の時はきれいに皮がむけて社会人として通用するんだ、まあゴロゴロしながら本を見るんだ」と常に言つておられた事がほうふつとしてうかぶ。その言葉がわれわれの向学心を燃えたゝせる先生の力に無限の愛着をおぼえる。われわれ立教生はセントポールの下今は亡き先生の心を深く堅持すべく努力する事をこい願うと共に全立教生は先生に心から哀悼の意を表する次第である。（学生会会長）

論說

終戰四年を迎へて学生の現代的役割と責務

終戰は日本帝國主義のかい滅没落と同時に多年自由を求めて奴れい的悲しい忍従の日々を送つていた人民にとつて、暴力、権力に屈せず死も、獄中につながれることも怖れずに自由人権を護つた人々にとつても、それは自由と解放を約束する輝やかしい出発点を意味していた、戦争のいたいたしい破壊と虚脱の中に学問、思想、言論、人権、結社の自由を一挙に獲得したが一歩一歩、一年一年、去年よりは今年と民主主義の眞髄を把握してわれわれが期待した自由な社会は果して建設の一途を歩んでいるであろうか。

日本人、特にインテリは彼岸の火災を一見自分等に直接関係なしとみて、面白がつたり野次馬的行動は、體面上取らないまでも拱手傍観しているのが常で火勢が強まり、身近に迫つて來た時はすでにおそく、風をともない水は欠乏し如何にあわててもとりかえしのつかない悲惨な惨害をこうむるものである。要するにこれはインテリ特有の利己主義的日和見主義が自からの墓穴を掘つたといえよう

資本主義の矛盾と一般的危機の激化を隠ぺいし、帝國主義的野望達成のために世界におけるファシズム國家郡の一環となりぼう大な軍事力・警察力に依つて武装しながら学問・思想・言論を弾圧し、社会の合理性、科学性を無視して、天皇制ファシズムをさん歌し、發國、八紘一宇東亜共榮圏等の美名の下に人民を無謀な戦争にかりたてた時に自由主義者・社会主義者・宗教家や労働者が獄も死もいとわず生命をとして戦争反対の斗争を行つたが、大部分のインテリは戦争が反人民的であり一部軍閥を利益する疑まん的無謀の戦争であることを知りつゝも、何等積極的行動に出ず〝誰かやる〟だろうと向う岸の火災視し、手助けすらもせずしていたことが日本の國土を、いや世界の國々を廃跡と化した、悲惨にして暗い宿命的戦争に追い込んでしまつたのだ、それが自からの沒落を招く結果となり平和を迎えた今日四年前の暗黒な絶望的印象が生々しくよみがえつてわれわれの脳裏から拂ひ去ることは出來ない。

雑草は强じんであり、繁殖力は猛烈に旺盛で如何なる土じようにせよ少し油断しても、たちどころに芽を出だし、実を結び、あたり一面に実をばらまき見るまに繁殖して取りかえしのつかない状態になるこれと同様にファシズムもあらゆる社会にいや各人の内部にも強固に根を張つている、若しかりに一人でもファシズムのふきでる芽を刈り取ることを怠るならば一朝にして蔓延し、あはてふためいても後の祭となり、それは個人的罪を犯したばかりでなく社会的罪悪を犯すことである

自由を獲得してから四年目早くもファシズムの萌芽は諸法案となり次々と出現し、自由の社会を侵かし始めている。すなわち大学法（理事会法）を細分した大学行政法、学校組織法、学校設置法、教育免許法あるいは第六回國会に提出される大学管理法案、私学法案等学問の自由を奪うもので實施をみてまだ新しい憲法を早くもふみにじり学生の希望と信を裏切り再び非合理的な政治支配を再現せしめようとしている時昨年六月の教育復興斗争以來学生は敗戦の虚脱から立上つて、意識は旺盛となり学生運動は全國的な拡りと活発さを加えているが、これまでの近代主義的自由主義の教育にわざわいされて十年廿年前の感覺と意識の中に社会の動向、進展を無視して社会的現象を彼岸の火災視している日和見的学生がなお多く存在している。このことは四年前インテリ学生の利己主義と個人主義的日和見主義が社会を不幸のどん底に落した、その生々しい経験を再び犯そうとするものである。

吾々は学生は感傷にとらわれることなく、前期的なたいはい的意識、感覺、習慣を廃紙の如く捨て新時代の意識、感覺を受け入れる若々しい感受性を涵養し、純眞性、情熱を持つているのだ。

今こそ吾々は傍観的日和見的態度を一掃し、現代社会の現実を矛盾を不合理をリアルにとらえ世界平和のため日本の眞の民主化のため一致団結して迫りくる教育ファシヨ化から勇敢な斗争を行ひ弾圧に屈せず、学問の自由と学園の自由を護ることこそ吾々学生に課せられたの現代的役割と責務ではなかろうか。

米科学者は「忠誠令」に反対

（ニユヨク四日発タス—運合）シカゴ大学生物理学教授サイラド氏は原子科學者公報に次のよう論文を発表している、私は科學者に対して忠誠計画に断呼反対し、教授や研究者や学生の選択にとつて唯一の基準となるのは科學との能力であるよう要請する、またプリンストン研究所長で物理学者のオツペンハイマ氏も私は忠誠誓約に反対する重大な科學との発見、原子力の平和的利用は共產党員であるジユリオ・キユリ教授とシンパである同夫人によつて発見された、この一事を考えるだけでも思い半ばに過ぐるものがあらう

伊青年の戰爭反対デモ

（ローマ十二日発タス運合）自由平和擁護イタリヤ青年全國会議は、各地方の民主青年会議で選出された代表八千名が出席しローマで開かれたが、十日には会議代表や各地方からロマに到着した青年男女五千名が戦争反対のスロガンをかゝげて四時間にわたるデモを行いソ連、中國、米國の各青年組織代表イタリヤ共產党代表ヴエレリスパノ氏がそれぞれ挨拶を述べイタリア社会党々首ネンニ氏はイタリア政府の政策を批判し北天西洋條約反対斗争の必要を強調した

在英中国留学生帰国を要望

（プラーグ十一日発新華社—TP—運合）さる六月ケンブリツチ大学でひらかれた英國留学中國人学生会議で九十名以上の留学生が一日も早く帰國して新中國の建設に従事したいとその希望を表明したなおこの会議では新中國建設にかんし種々討論が行われた

オランダの軍国色濃化

（ヘーグ四日発タス—運合）オランダ各紙の報告によるとオランダでは北太西洋條約と関連していろいろな戦争準備策がとられておりデワールドヘイド紙はアムステルダムの吸塵機製作工場は軍需工場に轉換し陸相の命令ですでに数箇の試験爆弾を製造したまた数週間前をブーンメンの一工場も軍需工場になつた

河西小川兩教授渡道

河西経済学部長小川学生部長の両教授は北海道同窓会支部、校友、ならびに父兄の熱望により本月の三日渡道して各地を約十日間歴訪し米國ミッションとの関係、最近の学校諸般の現状を述べ、非常な好結果をもたらして十四日帰京した

新應援歌發表會

讀売ホールで

應援団選定の新應援歌は既に本紙五七号に発表したが、この程更にサトーハチロー作詩、灰田晴彦作曲の新應援歌が完成したので前二つの應援歌と共にその発表会が九月十八日讀賣ホールで行われる

当日は午後一時、五時の二回灰田兄弟と楽団ニューモアナ、竹山逸郎、平野愛子、ミキトリローとそのグループ、ビクターニユーオーケストラ、立教グリークラブ等多彩な出演が豫定され会員券は百円となつている、なおこれで本学の新應援歌は三つになつたわけである

水泳部合宿開始

優勝を目指して

水泳部では今春の三大学、全日本の不振をばん回すべくはん雑な東京を離れて靜岡縣清水市の清水商業学校に二十一日から二週間の豫定で合宿訓練を行ない秋のインターカレッジに備えて杉山主将以下望月、原、山田、中村、天野ら精鋭を集めて必勝を期している、既報、昨シーズン病氣欠場の黒田は、郷里高知縣下に目下加療中で、その後順調に快方に向つてをり、來春の三大学大会からは出場の豫定

なお、立教プールは例年の通り九月二十日まで公開される

波紋

▲つい十日程前に、覺えていた人もいるだろうが正直に、忘れていた人もいるだろう、新生日本の出発点を意味する終戦記念日を送つたのだが。

▲日本人にとつては悲しいことに終戦直後の一本の道が早くも二つの別れ道にぶつかつてしまつた、右へ行こうか、左へ行こうか、眞理の道はどちらであるか、右の道は黄金の國か、左の道はけわしいだろうか、早く決めないと日がくれてしまう、それともこゝで寝てしまおうという無氣力な連中が情けないほど多い。

▲大部分の人々はこの別れ道に眠つているが、資本家は最近つくつた民同という家來を引具して官僚列車に便乗し、右の眞暗な道を走りだした。

▲お目でたいのにも限りがある汽車はだれがつくるか、石炭はだれが掘るのか、實際に機関車を造り、石炭を掘る人をほうりだして汽車が動くだろうか、果して黄金の國に到着するだろうか途中で立往生が闇の山である

▼そこには悲惨な暗い恐慌が待ち受けている。恐慌の次に起るもの、それは経験してまだ生々しい戦争なのだ。われわれはねむつてはいけない。まなこを開いて眞けんにこの問題に取り組んでこそ平和の道を選ぶことが出來るのではないか。（H）

野球部長後任問題を審議

追悼試合に引続き野球部合宿に土生谷監督始め先輩諸氏四、五十名参集して審議を重ねたが、重要なポストだけに、この日は選定委員の任命に止まり慎重を期している、秋のリーグ戦を間近に控えて、その後任は注目され、その決定を急がれている

鈴木君負傷

去月二十八日より当局はS・P・C・Fに夜警を依頼したが八月九日夜責任者の旧三、鈴木君は高校プールそばのマンホールに落ち全治三週間の傷を負つた

新聲

新聞は眞実を書け

ここ、一月餘りのうちに奇怪なる事件が度重ねておこつた。即ち下山総裁の怪死、三鷹の無人電車事件、福島の列車てんぷく事件がそれである。

かつてドイツに國会放火と言つて世界の衆目を集めた事件があつた。この当時のドイツ政界の状態は、ナチスが政権を握つたばかりであつて、その比率はナチスがわずかに民主戦線側にくらべ優位であつたのである。然し社会民主党と共產党が提携すればこんど反対に民主戦線側が優利になるというきわどい状態におかれていたのである。そこで共產党は再三再四社会民主党に対し共同戦線を申入れようやくその統一懇談会が開かれるまでに到つたのである。そしてその統一懇談会が開らかれるという日にあの國会放火なる事件がもちあがつたのである。ナチ政府は待つてましたとばかりにこれは共產党の仕業だとデマをふりまき、共產党員のたいほにのりだしたのである。結局はこの事件も長い日時を費やした裁判の結果共產党員の無罪、ナチ側の犯人の有罪に落着したのであるが。

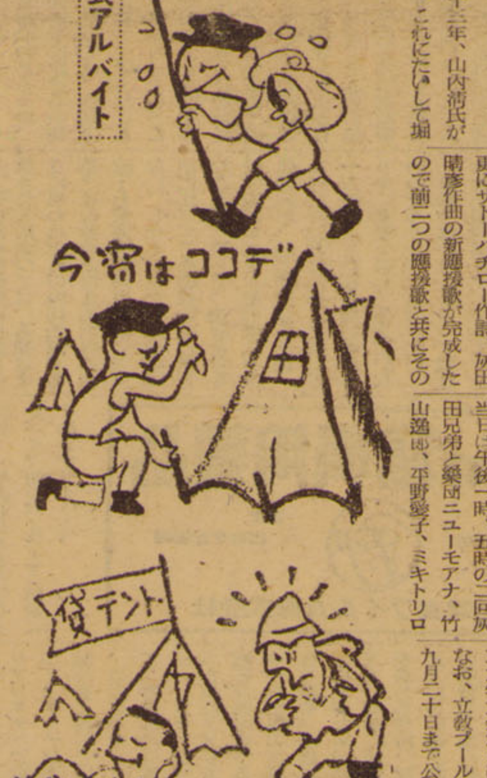
今ふりかへつて日本のこの事件をみるにこのナチのやり方に似ていないとだれが言い得ようこれらはみな政治とむすびついておこつているのである。國鐵一次整理に下山事件、二次整理に三鷹事件という具合に、そしてあれほど他殺他殺とジヤーナリストを始め、世間をさわがした下山事件にしても捜査當局すら自殺と推定せざるを得なくなつている。また栃木の列車暴走事件にしてもあれほど大々的に背後関係云々していたのが、翌日の新聞をみればみおとす位に小さく、しかも機関手の居眠りとしか出ていないのである。

我々眞理の探求を目指し学問をうけている者はこれらのデマに左右されることなく、正しく社会進化の法則をつかみ、眞の時代意識に目覚まれんことをねがう。（K）

声の反バク

六〇号にのつていた新三S・S氏の聲「立教の爲に苦言」に答える、君はどのような見方をしているのか良く解らぬが、一部の教授、学生が学者的良心や学問的良心を忘れて行動していると書いているが、一體どの点を近視眼的にとらへているのか非常に抽象的であり非具體的である。

漱石の小説を讀めとあるは、立教大学に赤シャツや青ナスの教授がいるということを意味しているのだろう、若しも君が漱石の坊ちやん氣取りでいるなら正々堂々と明白に指摘せよ、極くほんの少部分を神経質に拡大鏡をもつて拡大してながめているから君のいう教授、学生の欠点が教授、学生の大部分となつて君の狭少な正義観に映ずるのだ、どんな立派な人格をそなえた先生でも完全無欠ということはありえない、君が単に自分の蟲に好くとか、好かないとかの印象によつて誤解して批判したと思う、ぼくは君が批判した教授、学生を少しも弁護しようというのではない、ぼくが君と同じ様に二、三十度の角度からながめ、また日々その角度からのみ接触して一八〇度あるいは三六〇度の觀野でみていないかも知れないが、然かし良い部分のみを見ようと心掛けているし、見ているのだ、とかく人間自分の欠点をたなに上げて、他人の欠点に対してのみ目を皿にし耳をそばだてがちなものであるわれわれ立教に学ぶ者は立教生らしく紳士的になることを心より望むのである（W・F）


新式アルバイト
いざ山へ！
今宵はココデ
貸テント

新制　立教大学補欠募集

一、募集人員　文学部（英米文学科・基督教学科・社会科・史学科・心理教育学科）理学部（化学科・物理科・数学科）経済学部（経済学科・経営学科）第一学年　各科　若干名

一、出願手続　九月五日より九月十三日までに提出すること　志願者心得は只今交付中

一、選抜方法　九月十五日に筆答試験及び身體検査を行う　科目—文学・経済学部…國語、作文、社会、英語　理学部…数学、理科、英語

★なお詳細は大学事務所に照会されたい

昭和二十四年八月
立教大学
東京都豊島区池袋三丁目

アメリカの水準を行く
日本で最初の
理想の保険
初年度配当付
千代田生命

研進社
新刊 重刊
堀江邑一著　ソヴエト經濟論　價送共一八〇円
松岡三郎著　改正 勞働法　價送共一八〇円
井上晴丸著　日本協同組合論　價送共三四〇円
宮川實訳　マルクス　勞賃價格及び利潤　價80 送20
宮川実訳　マルクス　賃勞働と資本　價60 送20
加藤訳一訳　アダムスミス　国富論（第一分冊）　價120 送20
加藤訳一訳　リカアド　経済学と課税の諸原理　價230 送30
伊藤安二訳　カント　永久平和　價70 送20
東京台東区上野櫻木町

改造社
東京都中央区京橋一の三
振替東京８４０２
復活第一回 芥川賞
小谷剛
確證
颯爽として中央文壇に登場した新人の異色篇！
問題作「確証」横光賞候補作品「麻薬」力作「自辱」の三篇を收む
價一九〇円 〒30円
果然 圧倒的売行！
重版出來！
石坂洋次郎　若い人（上卷）二三〇円（下卷）二六〇円　B6美本
ケルツエン　上脇進訳　誰の罪か？　二九〇円

新潮社
風琴と魚の町　第五回配本 林芙美子文庫
「風琴と魚の町」「市立女学校」「枯葉」等、初期の作品九篇を収めた短篇集　定價二三〇円 発賣中
暗黒事件　バルザック選集　水野亮譯
独裁政治の裏面—秘密警察を余す処なくあばいて興味盡きない絢爛の大ロマン　定價二三〇円 一八日発賣
最後の晩餐　石川淳
「最後の晩餐」「變美人」「おとしばなし」等、未刊七篇を收めた短篇珠玉集　定價二〇〇円 発賣中
共產主義批判の常識　小泉信三
知識人必讀の書—人間の行動は思想の正しき把握によつて律せられねばならぬ　定價一〇〇円 重版発賣中
東京都新宿区矢來町七一番地

纖維經濟研究
第四号予告（八月下旬発刊）
特集「經濟恐慌と纖維業界」
業者自身の手になる纖維経済専門雑誌！現下の輸出不振はなぜ起つたか、世界の動き、日本の動きは本誌に凝集されている！
論説　染色界の諸問題……本研究所顧問　西田博太郎
酸性人絹の近況……日本窒肥料　宮川宗明
輸出産業としての紡績業の将來性……東洋紡績　宮田光興
紐育綿布相場の見方(二)……綿スフ機業会　井上考
特集「経済恐慌と繊維業会」
概説……本研究所調査部
各論　生糸……石川正
夫絹人絹織物……坂井五郎
綿織物……澤井信男
同……吉岡一二
羊毛……白谷嘉代松
麻……松元堅太郎
メリヤス……太田恭二
縫製……山田芳三
國内市場……山崎肇
同……河村幸次郎
海外市場……村田憲二
同……野田光郎
業界展望
新しい化学繊維・繊維油剤等……（実費頒布）
東京都中央区日本橋芳町一丁目六番地の一
財團法人 日本纖維經濟研究所

ゲーテ生誕二百年記念出版第一册！
トーマス・マン著　高橋義孝訳
ゲーテとトルストイ　定價一九〇円 送料二〇円
数多いゲーテ論・トルストイ論の中でもこれは際立つて面白い本である。さすがにマンは作家だ。傳記や逸話集から材料を取りながら普通研究家の企て及ばない非凡な本に仕上げている。七月上旬発賣（B6判二四〇頁・肖像写眞版二葉）
島田巽著　マーシャル・プラン（発賣中！）定價一八〇円 送料二〇円
アメリカの対外援助政策の根幹をなすマーシャル・プランの本質と意義を詳述し、更に基礎報告、條約を收録して理解に便した（A6三二〇頁）
朝日新聞社

コロンビア大学教授 G・S・クレイグ著
科學の教室
全三巻 完璧の日本
日本教職員組合 文部省科学教育局長 推薦図書
【訳編者代表】合田得輔 宮原誠一 久保亮五 村越司 篠遠喜人 和達清夫
ベストセラーを約束された優良書
圧倒的好評の上巻についで中巻発賣
中巻 A5判上製二七〇頁（アート写眞多数）【定價】三〇〇円・〒留七〇
（上巻）定價三五〇円
東京都千代田区日比谷公園二　支社局…全國主要都市63カ所
時事通信社

世界文學全集
最高の編集・最低の定價
第一回發賣　ゲーテ集　高橋健二譯
ゲーテ生誕二百年！全著作の粋をつどう
深き思想を堪えた抒情詩八十篇　永遠の青春の書「ヴエルテル」＋叙事詩「ヘルマンとドロテーア」ゲーテ文学の頂点「ファウスト」
第二回　モーパッサン
第三回　バルザック
内容見本呈
定價　並製各二百円　特製各三百円　送料廿円
東京神田駿河台下　河出書房　振替東京10802番

ゲーテ二百年祭に
世界人としての偉大さ

番匠谷英一

ゲーテがフランクフルト・アム・マインで生れたのは、一七四九年八月二十八日のことだから、丁度今年は彼の生誕二百年祭にあたる。ある日、編集の××君がやつて來て、ゲーテのことを何か書けという。立大新聞まで、そんな眞似をしなくてもよかろう、といつたが、ゲーテの見かたにもいろいろあるわけだから、とうまく説きふせられて、貴重な紙面をすこし埋めることになつた。

わたしがゲーテについて、いつも感心することは、彼が徹頭徹尾世界人であつたということである。ナチス華やかなりしころ、彼は最もドイツ的な作家として、ナチスの賛仰する國すい主義作家の筆頭におかれた。こう思うとナチスが散つて、世界主義的な見方が世をおおうている現代においても、彼はまたそうした見方の先駆的作家としてアメリカ人たちからも賛仰の目をもつて迎えられている。ではどつちがほんとか。わたしはどつちもほんとだと思つている。も一歩つつこんでいえば〃ほんとに彼は、最も世界人的な作家として偉大なのである。彼はすべてにおいて軸を見る。彼にはくつたくがない。彼は常にいゝたいことをいう。ドイツ人であると共に、彼は常に世界人であつたのである。ゲーテをブルジヨア作家であるとか、貴族主義作家であるとかいつて、よく非難したがる左翼批評家を見かけるが、わたしはいつもその人たちのケチな了見に不感服の目をむける。そんな考へがちの人たちには、しよせんゲーテは分らない。その人たちの左翼思想まで、なんというケチな基礎の上に立つていることだろうと思わずにはいられないのである。太平洋戦争が始まつたとき、やたらに学問をあつぱくして日本、の学生たちから英語を締出した為政者があつた。敵を倒すためにはまず敵を知らねばならない。なんという馬鹿な為政者だろう、とわたしはその時おどろいた。ところが、それにもましておどろいたのは、終戦直後の新学期から、手の平をかえすようにドイツ語をしめ出した大学が、この都下にもあつたことをである。進駐軍に恐れをなした、取りこし苦労からであつたのであろうが、それにしてもあまり悲しい取りこし苦労であつたことよ。話は脇道へそれたが、ゲーテはあくまでも國境をこえて、物をいつている。考えている。この見方をはなれてゲーテを理解することはできない。も少しつつこんでいうならば、ゲーテはつねに年齢をこえて、人を、ものを、見ている。それはゲーテの八十数年にわたる永い生涯の対人関係を見ればわかる。恋愛を見ればわかる。彼はつねに眞剣に人に接している。それは一枚のハガキもかりそめに書かない人の眞剣さである。それは彼の何十年かにわたる長い、長い間の書簡集を見ればよくわかる。あの有名な「ゲフンデン」という小詩によつても知られているように、ゲーテはふとしたきかいに、造花工場にはたらいているかれんな十五歳の一少女クリスチーネを見いだして、それを、自分の庭にうつしうえた。その後十八年、とうとうゲーテとの間に五人の子をなしたのち、やつとゲーテは彼女を正妻になおしたわけだが、一部の人たちは、このこと一つだけを取りあげて、ゲーテを不信仰の人として非難するに十分であるという。これまたゲーテを知らざるものの言である。その人たちさらに、あの「マリエンバードの悲歌」によつて有名な、彼の最後の恋愛に対しても、手痛い批難の矢をはなつ。そしてその時ゲーテが、いかに眞剣に恋愛し、いかに眞剣になやんだかについては、なにも語らない。なんというそれは皮相な人たちであることよ。一人の作家を研究するとき、最も大切なことは、一つの作品、一つの行爲を、つねにその作家の全円において見ることである。あの清澄なあのあまりに古典的な「イフイゲーニエ」が、政治家としてのゲーテが、兵事や道路建設委員会の長官に任命されて、つねに各地に出張し、ほとんど寸暇ないまでの多忙のうちに、しかも徴兵事務や道路調査のために深夜まで地方の宿屋の一室で事務をとつている最中に書かれたものだということを知つてからでなくては、ほんとにあの作品を理解することができないのではあるまいか。「ヴエルテルの悲しみ」も、もちろん恋愛遊戯やきれいごとの結実ではない。ほんとに悩み苦しぬいたのちのヴエルテルであつたのである。

ゲーテをよむごとに、いつもわたしの思うことは「寛い心」ということである。ものにとらわれない、垣をつくらない、美しいものを、つねに美しいものとして喜ぶ心である。愛する心である。（八月十八日夜）

（筆者　本学教授）

警察力増強の意味するもの
基本的人權と警察力

熊倉武

最近いわゆる〃社会不安〃なるものが、新聞、雑誌、ラジオなどを通じてやかましく傳へられている。いうところの社会不安とはなにかということになると必ずしも事実は明確ではないようである。あるものは共産党の暴力革命の一環だ、などとももつともらしく宣傳しているし、またあるものは、いやあれは民自党を先頭とする右翼反動主義者たちのファシズム独裁のための意識的工作だ、などと反ばくしているといつたにぎやかさである。

ところで、いわゆる〃社会不安〃なるもの——独占金融資本の支配する歴史的段階における社会不安なるものの本質はなにか、その意義いかん、などということになると話はすこぶるむづかしくなつてしまうので、ここでは割愛させてもらうこととする。だがそこで問題なのは、そのいわゆる社会不安なるものを鎮圧するためには警察力を増強し、強大なる警察機構を完備する以外に途はないのだ、というような意見が強力に主張されそのための実際上の工作がすでに行われつつある、といふ現実についてである。

このことは非常に重大な問題なのである。という意味は、警察機構の強大化や警察力の増強が、言葉の眞実の意味における〃社会不安〃の鎮圧にではなく遂に近代民主主義市民國家における國民の基本的人權の抑圧に悪用されるようなことがあるとしたら、ことは重大であるといわねばならないからである。

かつて——といつても今からわずか数年前のことでしかないが、敗戦前のわが國の警察がいかなるものであつたかは、くどくどしく説明するまでもなくいまだにわれわれの記憶になまなましいところである。敗戦後いくばくもなく、日本警察制度改革のため最高司令部警察顧問として來朝された「都市警察制度企画団長」元ニユーヨーク市警察総監ルイス・ヴアレンタイン氏は、その報告の中で「日本警察の責任観念は奇妙にパターナリステイツクなもの」であり「日本の警察機構は民衆に奉仕するためでなく、政府当局者の野心を達成するために創成されたものである」と、いともしんらつにしかも正しく指摘されている（連合國最高司令部渉外局発表、一九四六・九）また現行警察法制定のための直接指示として、時の内閣総理大臣（片山）宛に発せられた連合國最高司令官の一九四七・九・一六付書簡でも過去における日本の警察制度にふれ「大衆大衆の統制外にたつ行政長官を長とする高度に中央集権化された警察官僚制を設置し、これを維持することは日本の封建的過去においてそうであつた如く、近代全體主義的独裁制のけんちよな特徴である戦前十カ年間における日本の軍閥のもつとも強大なる武器は、中央政府が都道府縣警察をもふくめて行使した思想警察および憲兵隊にたいする絶対的な權力である。これらの手段を通じて軍は政治的スパイ網をはり、言論集会の自由、さらに思想の自由まで弾圧し、非道の圧制によつて個人の尊厳を失墜せしめるにいたつたのである日本はかくて全く警察國家であつた」といつて非難しつつ、今後は「社会にたいする警察官の地位は、その主人ではなく公ぼくでなければならない」ような制度に改変すべきである、ということが指示されている（一九四七・一〇・一〇朝日）現行警察法では、従つて支配者の野望達成の爲の用具であつた過去の警察制度を打破し、新憲法下・主権を有する國民の公ぼくとしての役割をはたすべき警察制度に改変されたのである（前文・一條参照）

ところが、最近いわゆる社会不安なるものを口実として、警察力を増強し、警察機構を強大化しようとする現実の動きがある。國警対消防署の動員協定にしても、東京都警視廳設置條例の制定にしても、科学捜査研究所設置の動きあるいは臨時國会での警察法改正のためのしつような工作にしても、みなその例である。もとよりわれわれは、國民の身體生命および財産の安全を保つため、凶悪なる犯罪をぼく滅するための制度としての警察力の増強については、反対するどころか大いに賛意を表するものである。

だがしかし、いうところの社会不安にしても、またそれのための警察力増強の要求にしてもそれらが國民の聲として現われたのではなく、すべて現在政權を掌握し政治を擔当している民自党の吉田内閣から官製の〃よ論〃として流布されているのはいつたいどうしたことなのだろうか。眞實の國民の〃よ論〃ではない官製の〃よ論〃の流布がいかに危険この上もないものであるか、ということについては今次の敗戦についてみても、忘れえない深刻な體験をしたはずである。ところが、いまだその傷のいえない現在、それフテイの輩が社会不安を陰謀しているの〃それ警察力が遅刻增强されねばならないの、などゝいう官製世論が公然と政治を擔当している吉田内閣によつて流布されている現實なのである。われわれは、このような現實が、歴史的発展の現段階との関連において具體的にはいかなることを意味するものであるか、ということを正しく認識する必要がある自己の政治力の喪失によつて生起しつゝある社会不安を警察力の増強によつて權力によつて抑圧しようりすることが、民主主義平和日本の再建の途上において具體的にはいかなる現實を結果するか、といふことをわれわれの祖國に再びファシズムを軍國主義を暴力政治を再現させるようなことがあつてはならない。それは再び悲惨な戦争に途をひらく以外のなにものをも結果しないからである。（一九四九・八・一七）筆者本学教授

戰爭拒否

深尾須磨子

第二次世界大戦の経驗が、いかに人類にとつて苦い経驗であつたかは疑う餘地がないと思う。しかも戦争が終つてホツとするひまもなく、われわれはまたもや、第三次世界大戦の不安と憂慮になやまされているのである。要するに、いわゆる経驗も、人間にはこんなにも役立たない無駄なものなのだろうか。

資本主義経済下における金銭萬能の社会にあつては、金銭、の欲望は累進的で、どんなにもうけてももうけ足りるということがない。その経済を支配するものは、絶えず大もうけをたくらむのである。そのためには戦争が何よりボロい彼等の事業なのだ。そこで資本家と軍人がけつたくして、今度こそ人類の滅亡さえ豫言される第三次戦争への準備に忙殺されている事実は否定すべくもない。これを人類的に見て、われわれは何と判断すべきだろうか。

限られた一部の金銭的野望を満たすために人類の大部分が犠牲になる、というようなことが人類主義から準していかに誤つたものであるかは今更云々の要がない。しかも人類の明日の幸福にのみ寄與すべき原子力までが、そのために無限に用意され費されるに至つては、人類はまさに呪われたものの代名詞である。その非をとなえる世界人や原子力管理等の問題もないではない。しかもつめたい戦争の叫びに比べて、その聲の何と無力なことよ。そして、戦争を身を以て拒否すべき人類の母なる女性の聲が、何と絶無なことよ、この世界のどたん場に、果して一人の眞人も存在しないのだろうか。女性は果して生きていないのだろうか、と借問したい

最近、永井隆氏によつて編まれた「原子雲の下に生きて」を読んで、私は胸が一ぱいになつた。これは、すさまじい原子爆弾の経験をへた長崎の子供らの手記をあつめたものだけれど、いじらしい幼な子らの率直な叫びは、必ずや人類の迷夢を覚さずにはおかないだろう。私も彼等とともに世界に向つて絶叫したい。「げんしばくだんはひどかバイ。痛かバイ。もう戦争はやめまツせー」と。

N君への手紙
—ピエールを乗り越えよう—

明智二郎

何度も手紙をもらいながら、君の好意に報いることができず申し訳ありません。多分八月も末になれば二、三日暇ができるので、そのときには是非君のところへ行きたいと思つています

ぼくも相変らずですといいたいところなんですが何しろ今年程めまぐるしい夏を過しているときはありません。山へ海への涼味をあじわうこともできず、毎日ビタミン注射をうつてもらいながら、やつとの思いで都会の焼けただれた舗装道路の上をのたうち廻つているといつた状態です。

富士山にいだかれた御殿場の君の生活もなかなか楽しそうですが、つかれきつて一日の仕事を終え、家に帰る前に事務所のビルの屋上から、夕陽にてり映えてうす紫色にたなびく雲の果にくつきりと浮ぶ富士山を眺めるのも実に素晴らしいものですよ

ところで昨日いただいた手紙の中に、君のY君に対する反発が敵対的にまで感じられて取り急いでこの手紙をしたためているわけなのですが、君が手紙の中で述べられているように「……何んでもかんでも経済に、社会に結びつけて得々としながらそれが話されている間にあるものは借りものの公式だけであり自分という存在などどこにも見当らないという状態は、戦争中の目かくしされた馬車馬的な生活と何の択ぶ所があろう……」「……自分では立派であると思つている社会主義的な正義観が實はぼく達長い間毒されてきた封建的な物の見方、あるいは感情でだけしかものをいうことのできない近代以前的な状態から脱し得ていない偏狭さと結びついていて、ともすれば他人を観念的だと一方的にきめつけながら、ひるがへつて見て自分自身さえもまた観念的な空轉をやつている……」という点は、確にS君の場合だけではなくて、往往にして見られることがらです

S君なりぼくなりが右のような状態にあるとしたら、相手の人が単に反発を感じるだけであることは君が指摘している通りだと思います。

しかしそのあとで、君が人間の近代化あるいは主體性を強調する餘り、大きな社会の動きやプロレタリヤの動向を疎略にとりあつかつて「……本当に自分を見つめ、自己に誠実であろうとし、眞実を求める苦しさにたえてゆく努力こそ学びたい」と述べている点については、いささかぼくなりの主張をし、君のS君に対する誤解の一端でもときほぐすことが出来たらと思つています。

君自身が感じとつているように現実の日本の民主化の推進力をなしているものは、プロレタリヤであり大衆であることは、敗戦後の四年間の歴史を眞面目に顧みれば明らかだと思いますし、だから僕たちの前近代的な観念、行動を清算して自分自身を含めての近代をつくり出す運動に参加を行い得る対象は、勤労大衆であると確信しています

君が言われる眞実を求め眞実に苦しむという事は、一個の人間としての内面的な意識と客観的な社会的な存在との間におけるカツトウ・マサツであり、矛盾につきあたることだと思いますが、その場合どのようにして自分を止揚してゆくかという時に多くの場合にそして多くのインテリゲンチヤがその解決を客観的な社会的な存在に対しては次第に自身の眼を遠ざけてしまい、單に自己の内面的な問題としてのみ取りあげる仕方をするという傾向については十分警戒しなければならないと思います。

今「戦争と平和」を読んでいるそうですが、その中でトルストイがニコライ・ロストフからアンドレイ・ボルコンスキーそしてピエール・ボズーホフえと歩んだ眞実の追及にこそぼく達は多くのものを学びとりうるのではないでしようか、ニコライのような貴族地主的生活肯定の安易な道ではなくて、民衆の素朴な息吹を感じ、そして歴史のにない手が民衆であることに氣付き、より民衆の生活を自己の生活にしようと努力するピエールそしてトルストイによつては画かれなかつた新しい時代を切りひらくべきインテリゲンチヤとして成長する方向に、ぼく達自身ピエールのもつ限界をつきやぶる意味において共々歩みたいと思つている許りです。

筆では思う事を十分書きつくすこともできないので、君に直接会つてゆつくり話し合う事も楽しみにしております。

ではお元氣で、

八・一七夜　A生

N君へ

下町の灯

石川章

浅草は旅人にしか作品に書かれないといはれている。それなら下町出身の作家の眼に映るものは何？と私は考えてしまう。しかし所謂下町つ子が画いて行く人生構図、特に下町つ子だつた作家群を通して私はほのかなかすかな淡い一連のつながりを感じてくる。知性というものが下町に住みつかないで、ファンタアヂーとなつてしか心に浮んで來ない、六区にせよ、夕方の田原町のあかりにせよ、それが知性の対象ではなくて、人間のふるさとであるような…。

私は下町に多くの友を持つている。吉原の大工の息子等もいる。吉原の数奇屋造り専門の大工だがひまなときには女郎部屋の下足札を将棋型にけずつている家だが、いつだつたかそこのおやじさんがこんな事を言つていた。

「吉原の普請は土地の職人でなくちやつとまりませんや、他の土地の職人じや、酒もびんずめにしてもたせてやらなきや、しまいには鼻を切おとしちやうんですからね」

非常に面白い言葉だ。裏町のごみごみした所で生れて育つてゆく下町の子供達には他の土地の人間にとつて好奇心となる社会環境が彼等にとつては健全な生活基盤であるからだと言へばあるいは読者の中に下町つ子特有の健全な人間性を思い出す人もあるかも知れない。人間の生活の表裏を生れながらに知つている人間社会で、人間の知性つてものがどんな風に生長するだろうか、恐らく大部分は芽ばえてすぐにもぎとられていく、だから下町の知性が生長するには、下町にはない力でしかのびていかない。だれもの人生に、行手に江戸時代以來の固い健全なモラルが待つている。これをつき破るもの、これはうつかりすると下町への反逆でしかない。

私の別の友達に仲見世のおやじさんがいる。大学を途中でやめて主人になつたが私にいわせれば、何か疲れきつたという感じだ。出世も栄達も考えていない。そして三社の祭の御輿を酔つたようにかついでいる。

私のいゝたかつた下町の輪廓は大體お分りになつたと思う。芥川龍之助、久保田萬太郎、舟橋聖一、堀辰雄、立原道造と一寸思い出す作家、浅草、本所、日本橋の連中だ。しかし浅草を書いた作家は武田麟太郎、川端康成、高見順、永井荷風がいる。しかしこの作家の眼に映つたもの、そして取材したもの、あれは浅草でも、下町でもないと私は思う。何か波止場のような、場末だけに動いている人間像、單なるエキゾチックさに酔つている。私にいわせれば下町つ子は下町というものに、こんなことで酔つたことがない。普通の刺げきでは感じないような皮膚を持つている。裏町のごみごみした夏の宵にはひどい風景を見、吉原帰りの酔つぱらいと一緒に育つてゆく感覚、空氣を吸うのと同じ程度の皮膚にまでなつている。私のいゝたいのはこれからだ。

この強じんな皮膚の下で育つてゆくものは何？

一つは下町つ子の健全さ、義理固さ、そして恐らく他國の者は豫想し得ない純粋な夢だと私は言おう。たまに上野の山から飛んできた一匹のセミの鳴聲に遠い個々とした高原さえ感ずる心、あるいは山の手の珍らしくもない小路に遠い距離を感じてくる皮膚、その果に淡い純粋な風景を夢みている皮膚の下。人生の裏表、生活というものについては何もかも知つているくせに、そんな生活とは全々関係のないような、持たなければ生長し得なかつた下町つ子の夢……この線上に私は堀辰雄、立原道造を思う。

しるしばんてんで、アツパツパで道行く町、その路上で遊んでいる子供達、その頭上のはるか彼方で健全な町人の世界が待つている。これから逃亡するものは知性しかなかつた。これだけは浅草に住みつこうとしない。

鯨のにほい、六区、すしや、古着屋、泥棒市……数限りのない人間生活の型裂の中で、美しい愛情が結ばれてゆく下町つ子の頭上で、あたりの雑踏をけとばすような皮膚はいつも夢みている。（作家）

最近の歐州映畫と米畫

一九四八年の三月から一九四九年の二月までの一年間、ニユーヨーク市のワールドシアタでイタリーの反対映画「パイサ」が上映されそれが終つてからブロードウエイ界隈の七つの常設館で一齊に封切られた。新聞雑誌の映画評は“Pulse puiker”（「鼓動を早めるもの」とか、“Ckinematick shok”（映画的興奮を興えるもの）とかいつて賛辞を送つた。一本の映画が一年間も連續上映されたとも驚異的ではあるが、この前まで全世界の映画市場を一人であしらつて涼しい顔をしていたアメリカ映画が、戦後次第に全世界の市場を喪失し、あまつさえアメリカ國内においても外國映画に自國作品が圧迫されている事實は色々なことを物語つている。

経済学者はこゝにもアメリカ資本主義のボロを見出すであろうが、今こゝでは映画技術の問題をとりあげてみよう。映画が出來るだけ自由にいひたいこと見たいことを表現する爲には常に映画技術の裏付けがなければ望めない事であり、映画技術の発展が全社会の生産力と密切に結び付いていることは明白である。だから資本主義的に高度の生産力を持つているアメリカ映画は明るいレンズも、美しい色も、立派なセットも持つているし、益々立派な装置も生れている。それだのに戦火に傷められまだその傷が癒えない歐州映画に何故アメリカ映画が圧迫されているのだろうか。限られた紙面で詳しく論ずることは出來ないので、ドキユメンタリー・フイルムを例として話を進めよう。日本で紹介されたものに「海の牙」（佛）と「裸の町」（米）がある。前者はドイツ潜水艦を舞台にナチの暴虐を暴露したもので、戦争を憎み平和を求めて作られたものであり、後者は西部大活劇を母體にもつたアメリカ映画らしく、ニーヨークを舞台としてピストル活劇を演じさせたものである、同じドキユメンタリー手法を用いた映画でありながら、片方では現實の歴史をリアリステツクに画くことに依つて、アンチファツシズムの精神を強く表しているのに対して、他方はギヤングを町から追つて、写眞の持つ眞迫感を盛りながら、メロドラマを作つてしまつた所にアメリカ映画が歐州映画に圧迫を感ずる要因がある。今や全世界の良識ある人民は、作り話や、本當にあつた話を本當にあつた所で写したものにしても、切實に要求している平和を求める氣持、現實に悩み苦しんでいる問題とおよそ縁遠いものを持つて來られても、何ら感興をそそらないということとである。クローズアップ技法にしても、それが俳優の顏をクローズアップしてスターシステムを作り、俳優の目玉や鼻の穴を切り賣りして、ミイーチヤン、ハーチヤンを熱狂さした時代はもう過去のものとなりつゝあり、クローズアップの対照を藝術的に高め典型化するものをより力強く画く爲にこそあるということを、五〇年訓練を受けて來た映画観客は良く知つている。このように映画技法が如何に手先上手に使駆されても、山の彼方の空遠く雲を喰うような夢ではなく、現實を基盤としてより健全な夢を作らせるものでなくてはもはや何人も動かすことは出來なくなつている。最初例にとつたイタリヤの反戦映画「パイサ」は一ショツトもセット撮影がないということもさることながら、夫々独立した六つのエピソードの中に貫ぬかれている反戦思想と、より大きいヒユーマニズムの鼓動が、あれ程の支持を得たものと思はれる。（K）

秋のスタイルは
是非當店へ
最新の技術を持つ
立大御用　小林洋服店
立教大学学食裏

富士の寫眞用薬品
富士 組合せ現像剤
富士 組合せ定着剤
富士写真フイルム株式会社

紙と文具は
立教大学
立教中学
立教小学
御用
タケヤ文具店
池袋二丁目交番前

カバン
袋物　専門店
仕立と修理
格別迅速に致します
大興堂　△池袋改正通り 2ノ1092　◇邦映隣り

すしと辨當
池袋随一の粋
學生本位
勉强の店
美津家
池袋通り

何時も新鮮なものを
御用意してあります
おすしに辨當
立教生におなじみの
西口　三笠食堂本店

食卓に新鮮な
果物を
季節物は何んでも
取りそろえてあります
西口駅前　ゆう文果實店

池袋界唯一の信用
美寶堂
眼鏡 時計　各種
修理はぜひ當店に

立教ボーイ
お好みの
スタイル
理髪 ABC
池袋西口大番通
Modern
Barbar
Snop

上映中
有楽座
HOTEL DU NORD
北ホテル
マルセル・カルネ監督
巴里祭のほろにがき哀愁を描く傑作
ルイ・ジユウヴエ
アナベラ
ジヤン・ピエール・オーモン　主演
欧州映画ロードシヨウ
八〇円均一　早朝六〇円
自由定員制
毎日5回　10,40　12,40　2,40　4,40　6,40

優秀映画を最低料金で
8月5日マデ　魔法の樂弓
9月6日—12日　しのび泣き
9月13日—19日　商船テナシテイ
9月20日—26日　犯罪河岸
9月27日—10月3日　かりそめの幸福
新宿　帝都名畫座

Le Recif de Corail
珊瑚礁
▼名作「霧の波止場」についでミシエル・モルガンとジヤン・ギヤバンが共演した「地の涯を行く」「望郷」を凌いだ魅力と迫力の男性篇！
▼追はるゝもの同志が知る眞實の幸福もやがて束の間に過ぎて行くのだろうか？
原作……ジヤン・マルテ
脚色……シヤルル・スパーク
監督……モーリス・グレエズ
主演……ジヤン・ギヤバン　ミシエル・モルガン
池袋西口　エトアール

上映中
お嬢さん乾杯！
鬼才木下惠介が都会のペーブメントに流す青春明朗編
主演原節子、佐野周二
都民映画コンクール三位入選作品
1949年度松竹作品
場内冷房装置完備
新東地下劇場

絶対に新しいフイルムで
名畫祭
23日—29日　心の旅路
30日—9月5日　オクラホマ・キッド
23日—29日　荒野の決闘
30日—9月5日　運命の饗宴
（池袋駅西口）
池袋★ロサ　池袋★邦映

—待望の新輸入作品公開迄御期待！—
8月23日〜9月5日　秘めたる心　THE SECRET HEART　クローデツト・コルベール　ウオルター・ピジヨン　ジユーン・アリス　主演　M・G・M作品
9月6日〜9月19日　拳銃無宿　リパブリツク特作　出た雄大苛烈な西部劇　ジヨン・ウエイン　ゲイル・ラツセル主演　J・E・グラント監督
9月20日〜10月3日　極樂ダンス狂　スターン・ローレル　オリバー・ハアーデイー　主演　お染みの極樂コンビ久々の登場！
新宿 日活直営　帝都座　池袋 日活直営　エデン劇場